

小林道夫 チェンバロ・リサイタル



profile

東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。ドイツのデトモルト音楽大学に留学し幅広く研鑽を積み、帰国後は、チェンバロ、ピアノ、室内楽、指揮など多方面にわたり活躍し、特にバッハ、モーツァルト、シューベルトの解釈、演奏は高く評価されている。数多くの世界的名演奏家達と共演し、最も経験豊かな音楽家の一人といえよう。

1956年毎日音楽賞新人奨励賞、1970年鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)、1972年ザルツブルグ国際財団モーツァルトウム記念メダル、1979年モービル音楽賞をそれぞれ受賞。

武庫川学院女子大学教授、国立音楽大学大学院教授、大阪芸術大学大学院教授、東京芸術大学客員教授を歴任し、現在大分県立芸術文化短期大学客員教授。

スタジオ・ルンデに於けるルンデの会例会での小林道夫は、1982年11月のチェンバロによる「大バッハとその一族」に始まり、以後10年間は毎年複数回来演、その間、1985年の「J.S.バッハ・チクルス全10回」(堀栄蔵氏にチェンバロの製作を依頼するきっかけとなった=右記)、1986年の「モーツァルトの室内楽全5回」、1989年から1991年にかけての「モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲シリーズ(全7回)」など数々の注目すべきシリーズを行った。

また、1986年から1995年までは毎年年初頭のチェンバロによる「ゴールドベルク変奏曲」を、次いで1996年から1999年までは「New Year BACH」と題して「平均律クラヴィーア曲集全曲」など、重要な作品を通演している。

2007年の「ルンデ・さよなら公演」を最後とした通算52回となる来演は、かの金澤(中村)撮を例外としてダントツの頻度であった。

programm

J. S. バッハ：「クラヴィーア練習曲集」より
J.S.Bach : "Die Klavierübung"

第一部より パルティータ 第2番 ハ短調 BWV.826
(aus dem Teil 1) Partita Nr.2 c-Moll BWV.826

第二部より イタリア協奏曲 ヘ長調 BWV.971
(aus dem Teil 2) Italienisches Konzert F-Dur BWV.971

第三部より 四つのデュエット
(aus dem Teil 3) Duette BWV.802-805

ホ短調 BWV.802、ヘ長調 BWV.803
ト長調 BWV.804、イ短調 BWV.805

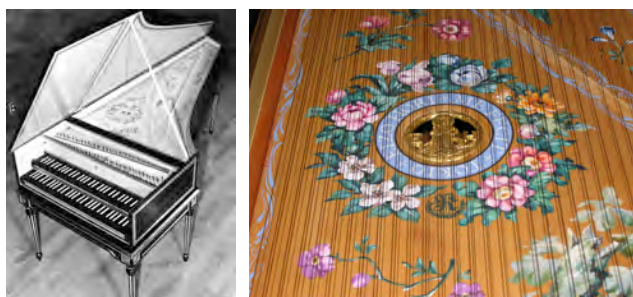
第四部 「ゴルトベルク変奏曲」ト長調 BWV.988 より
(Teil 4) "Goldberg-Variationen" G-Dur BWV.988

アリア、八つの変奏とアリア・ダ・カーポ

名器の響き 再び

～日本の名匠 故 堀 榮蔵氏 製作／ルンデ所蔵～

このコンサートに使用されるチェンバロは、1985年の「バッハ・イヤー」に小林道夫氏企画のチクルスで使用するため、ルンデが堀栄蔵氏に製作を依頼したもの。「フレンチ・ヒストリカル 2段鍵盤4ストップ (エムシュ 1640年)」の楽器の響板には、堀氏からの贈り物として17世紀様式の絵が描かれ、またその中にはルンデのマークもさりげなく置かれている、世界に無二のチェンバロである。スタジオ・ルンデに常置されて数々の名演を聴かせたほか、名古屋市内はもとより、愛知・岐阜・三重・静岡県下の会場にもしばしば「出前」され、多くのアーティストたちにも愛された。



Kobayashi Michio Cembalo Recital

コーヒー・ブレイクのある  コンサート

2013年 3月 4日(月) 19時開演(開場18時30分)

於：電気文化会館ザ・コンサートホール

全自由席：一般 4,500円/ペア 8,000円/学生 2,500円

※旧ルンデの会会員はルンデへお問い合わせください

休憩時間には、お茶のサービスを行います

チケット取り扱い：

ルンデ 052-861-0162

二宮音楽事務所 052-505-0151

チケットぴあ 0570-02-9999

【Pコード：189-899】

及び 市内主要プレイガイドにて

【主催】ルンデ 052-861-0162 <http://www.runde.jp> 【マネジメント】二宮音楽事務所 052-505-0151